

～加曽利貝塚&佐倉市歴史的町並み探訪～バス旅

2023-11-22 記 小倉洋一

■実施日：2023-11-16(木) ■参加者：22 名 ■行 先：千葉市加曽利貝塚、
佐倉国立歴史民俗博物館(歴博)他
■ボランティアガイド：加曽利貝塚・博物館ガイド、文化財ボランティアガイド佐倉

年 1 回のバス旅は、2012 年 6 月の第 1 回「行田市の遺跡を訪ねる」から今回の第 10 回「加曽利貝塚&佐倉市歴史的町並み探訪」まで 12 年の長きにわたる活動となっている。(2020 年、2021 年はコロナ渦で中止。)

今回は役員会で次の 3 候補、1)太田市世良田(徳川氏発祥の地、新田氏のふるさと)・上野三碑(ユネスコ世界の記録)、2)久能山(国宝御社殿)・三保の松原(富士山文化遺産、3)(特別史跡)加曽利貝塚&佐倉市歴史的町並み探訪が採り上げられそれぞれプレゼンを行い、結果。3)加曽利貝塚&佐倉市歴史的町並み探訪に決定した。

◆行程

スタート：所沢駅東口郵便局前(出発 8:10)⇒所沢 IC⇒加曽利貝塚⇒昼食(すしめん処大京そめい野店)⇒佐倉順天堂記念館⇒武家屋敷⇒国立歴史民俗博物館(歴博)⇒所沢駅東口(解散 19:00)
走行距離 220 km

11 月初旬には 40 数年ぶりの暑さを記録するも、当日は絶好の行楽日和に恵まれ早朝の集合時間にも拘わらず全員早めに集合、所沢駅東口郵便局前から、一路、千葉市加曽利貝塚へ向け出発。

所沢 IC から順調に関越道を走行するも、外環道に入ると通勤の車やトラックなどの大型車でみるみる大渋滞に 40 分遅れで加曽利貝塚に到着、見学時間を調整する。・・・首都高速道路をはじめ東京近郊の主要道路は物流と産業や暮らしを支える大動脈となって利便性は高まっている。

見学場所

◆(特別史跡)加曽利貝塚・博物館

縄文時代の貝塚は全国に約 2,400 箇所が確認されている。縄文時代に大規模な干潟が形成された地域に多く、中でも東京湾沿岸には全国の貝塚の 3 分の 1 に相当する約 800 箇所の貝塚が確認されており、特に千葉市内だけで 120 箇所の貝塚が確認されている。全国の貝塚の中でも加曽利貝塚は最大級の規模を誇っている。

2018 年の活動で所沢近郊にある水子貝塚・縄文竪穴住居を探訪した。貝塚の貝は、汽水域に棲息するヤマトシジミがほとんどであるが、ハマグリ、カキなど海産貝類も発見され、住居の貝塚の下からは中年女性の屈葬人骨や獲物を捕獲するための重要な犬が人の屈葬と同じ状態で埋葬されていた。古代人は犬を家族同様に大切にしていたことが理解できた。



加曽利貝塚公園正門前

ボランティアガイドの説明で広大な加曽利貝塚と博物館を巡る。

平成 29(2017)年 10 月、史跡の中でも「学術上の価値が特に高く、我が国文化の象徴」として、貝塚では初めて国の「特別史跡」に指定された。

加曽利貝塚の地に残された人類の痕跡は旧石器時代までさかのぼり、大きなムラがつくられたのは縄文時代中期後半(約 5,000 年前)で、直径約 140m のドーナツ形をした北貝塚と、後期前半(約 4,000 年前)には長径約 190m の馬蹄形の南貝塚が形成された。時期の異なる 2 つの貝層が連結して、上空から見ると 8 の字状にみえる。東京湾東岸の大型貝塚群の中で最大の規模を誇っている。貝塚には加曽利貝塚のように人々が暮らすムラにつくられた「ムラ貝塚」のほか、海で採取した貝を加工するために海の近くにつくられた「ハマ貝塚」などがある。

貝層断面観覧施設の、北貝塚では発掘されたままの断面、南貝塚では貝塚から剥ぎ取った断面を間近で観察することができる。過去の調査で竪穴住居跡が発掘された場所に実物と同じ大きさの竪穴住居を復元しており、内部を見学できる。

昭和 41(1966)年に開館した博物館では、貝塚から発掘された土器や石器など、縄文人が使用していた道具などを展示、園内では縄文時代の景観を想像させる自然が復元されている。



復元住宅



貝層断面観覧施設

◆佐倉順天堂記念館 ボランティアガイドの説明により当時の医学界の変遷を知る。

佐倉藩主堀田正睦の招きを受けた蘭医佐藤泰然が天保 14(1843)年に開いた蘭医学の塾兼診療所として創設され、西洋医学による治療と同時に医学教育が行われ、二代目堂主佐藤尚中をはじめ明治医学界をリードする人々を輩出した。なお、東京文京区順天堂は尚中の家系で発展してきた。

現在の記念館の建物は、安政 5 (1858)年に建てられたもので、昭和 50(1975)年に千葉県指定史跡となる。記念館では由緒ある順天堂の建物を保存するとともに、当時の順天堂で用いられていた医学書や医療器具などが展示されている。



佐倉順天堂記念館



佐倉順天堂(佐藤泰然像)

◆武家屋敷(旧河原家、旧但馬家、旧武居家) ボランティアガイドの説明により探訪。

佐倉藩では、江戸時代の後半天保 4 (1833)年に居住の制が定められた。公開されている旧河原家住宅が大屋敷、旧但馬家住宅が中屋敷、旧武居家住宅が小屋敷にあたると考えられている。屋敷の前は江戸時代の雰囲気を感じる景観が残されている。いずれも、道に面する部分を正面として、門を設け、土塁と生垣を築き、その奥に玄関や庭を設け、屋敷の裏側には菜園などをつくり、境界には木が植えられ背後の斜面は竹藪などになっている。当時の武家社会の身分制度による屋敷や暮らしを垣間見ることができる。



旧但馬家住宅



式台玄関

◆国立歴史民俗博物館(歴博)

歴史学、考古学、民俗学の文化財や資料を展示している日本最大級の規模を誇る国立歴史民俗博物館である。広大な館内は第1展示室(先史・古代)から第6展示室(現代)まで時代ごとの展示となっており、その時代を象徴するテーマに沿ってたくさんの復元模型などが数多く展示されている。展示物を眺めていると、まるでタイムスリップした様な感覚を抱き、子供から大人までたのしみことができ家族連れにもおすすめ！期間限定の企画展も多く、訪れる度に新しい展示を楽しむことができる。(第5展示室はリニューアル工事で閉室)

総合展示の解説は、スマートフォン専用音声ガイドアプリをダウンロードして聞くことができる。



復元模型



展示室の案内板



国立歴史民俗博物館入口

担 当：栗屋貴夫 大館徹 戸田チイ子 小倉洋一 他役員

参考資料：千葉市加曽利貝塚博物館資料(発行者千葉市教育委員会)

佐倉武家屋敷・佐倉順天堂記念館(佐倉市教育委員会資料)

国立歴史民俗博物館資料